

第29回全国ホタル研究大会報告

研究大会の概要

1996年6月14～16日に全国ホタル研究会第29回大会が、福山市、福山市教育委員会後援、第29回ホタル研究大会福山実行委員会、福山ホタル研究会、服部の自然を守る会共催により、広島県福山市で開催されました。全国各地からの参加者や地元メンバーなど180名余りが参加しました。

大会テーマ：『夢咲かそう、ホタルとばらのまちづくり』

会場：広島県福山市 備後ハイッ

大会日程

6月14日（金）

- 10:00～12:00 役員会
- 13:00～15:00 受付
- 15:00～17:00 見学会（福山ホタル研究会本部ホタル飼育場、道三川）
- 20:00～22:00 見学会（服部小学校のホタル飼育場、ほたるの館）
観察会（服部川）
座談会（於服部公民館）

6月15日（土）

- 10:00～10:30 開会式
- 10:30～16:00 研究発表
- 16:00～17:00 第29回総会
- 18:00～21:00 懇親会

発表内容

- 学校にホタルがとんだ～飼育委員会の取り組み～「服部の自然を守る会」とともに
福山市立服部小学校飼育委員会
- 福山でのホタル飼育のあゆみ
福山ホタル研究会
- 三原市沼田西町惣定地区におけるホタル保護活動について
惣定中住みよいまちづくりの会
- ホタルのやさしい河川浚渫のあゆみ
口分田政博
- クメジマボタルとゲンジボタルの関係
鈴木浩文・佐藤安志・後藤好正・山崎柄根・大場信義・川島逸郎
- 鹿児島県指宿市でのヘイケボタルの周年サイクル
大村俊郎・上野武次

ヘイケボタル七不思議

遊磨正秀

ヒメボタルの餌の陸貝について

西山 武

名古屋城外堀におけるヒメボタル雄の探雌行動の環境による変化

後藤好正・大場信義・鈴木浩文・佐藤安志

ヤスデを捕食するイリオモテボタルの幼虫

大場信義

福山大会を終えて

*信野 尚 (広島県福山市)

第29回全国ホタル研究大会が6月14日より3日間、福山市において開催することになりましたが、28都道府県より180余人の出席をいただいて盛会裏におわりましたこと、衷心よりおよろこびいたします。福山市内のホタルは、古来ゲンジ・ヘイケ共に多く生息しておりましたが、急激な都市化・工業化によって20年ほど前から急速に姿を消し、反面河川の悪化と改造が進んできました。ホタル復活運動の歴史は浅く、経験も乏しく、全国ホタル研究会とのパイプも細く、大会実施の情報の少ない中で、どのように受け入れたらよいか不安だらけでしたが、大場会長・圓谷事務局長ほか関係役員のご助言やご援助によりまして、ホタル研究について最も話合えるような大会になるよう計画を立てました。

その第1は地元受け入れ団体を単純化して強固にすることで、そのため、平素交流の深い「服部の自然を守る会」と「福山ホタル研究会」に絞り「全国ホタル研究大会実行委員会」として連携を一層密にしました。第2は地元はもとより参加者にとっても経済的負担を少なくすることで、そのため、半官半民の備後ハイツを会場とし、一流ホテルは避けることでした。第3はホタル羽化期に現場を見ていただくことでした。

その苦心の一端を紹介すると初日の見学・座談会です。15時に備後ハイツを出発し、最初に多治米町の福山ホタル研究会本部ホタル飼育場の見学。ここは芦田川最下流で海に近い農業用水路横の住宅地帯で、用水路の水を利用しての孵化から羽化までの完全飼育、福山ホタル研究会5か年の活動成果をとりまとめて実施している所で、飼育水槽の小から大までの各種試作したもの、また調査用水槽や、150mの人工水路を作成し放流しています。ポンプアップによる循環の水量や水路の傾斜、U字溝の砂の量、樹木などによる日陰などについて検討していただきました。ゲンジとヘイケを別々に飼育しておりますが、当日まではゲンジが多く羽化しましたので、その成虫、幼虫、産卵場所なども参考までに展示し、合わせて上陸確認数、羽化数、雨量、水質などについても表示しました。続いて道三川の見学に移りました。道三川は、昔は城下町と農業地との境として、城下町の外堀的効果として作られた用水路でしたが、その機能が低下して市街地の遊休水路になっていました。地元と住民の要望によって、行政が快適な環境づくりとして1990年より改善に取り組み、自然石による

遊歩道・護岸と低木樹・水生植物などの植栽，井戸水のポンプアップなど市街地の親水公園として整備が進んでいます。すでにホタルの放流によって部分的には羽化が見られました。総延長2.4kmのうち，最も家の立て込んでいる約800mを歩きながら市街地でのホタル再生について検討しました。

17時過ぎに一旦備後ハイツに帰り，夕食と休憩ののち，20時から22時まで，福山市北部の駅家町服部での座談会とホタル発生観察をしました。約30分のバスの旅の後，服部小学校のホタル飼育場の見学（数匹が羽化して光っておりました）。旧公民館を改造して服部の自然を守る会が管理している「ほたるの館」の中の飼育法と取り組み図表の見学の後，近くの服部公民館を会場とした座談会。この座談会では地元服部地区の歓迎挨拶，大場会長挨拶ではじまり，地元の女性会有志の名物手づくり料理と生ビールに舌つつみと和気あいあいのうちに全国各地のホタルに関する情報交換や交流を重ね，時間に追われるように服部川畔を歩きながらのホタル発生状況の観察でした。当地のゲンジボタルの発生ピークは6月8日頃でしたが，当日も相当量の乱舞が見られ，帰路のバス車中でも窓からその姿が眺められました。

好天に恵まれ，初日の見学会は成功したものと思われます。しかし，当初はマイクロバス2台約50名の参加を予定しておりましたが，参加希望者が大幅に増え，大型バスを1台追加することになりました。そのため，すべてに予算上の繰寄せとなり，3台のバスに乗り切れない人は会員の自家用車に分乗するなど，きびしい混み具合いで，参加の皆様には大変ご迷惑をおかけすることになりました。誠に申し訳なく深くお詫びいたします。

貴重な研究発表，ご意見やご指導を賜り，福山においてホタルを通じての自然の見直し，環境浄化，そうして自然保護の機運が一層高まるものと思ひます。福山大会参加の皆様本当に有難うございました。

*福山ホタル研究会